首里地域の「お出かけ」に関わる
くらしと交通を考える地域円卓会議

首里城正殿復元まであと４年、今後首里地域で予想される渋滞問題や住民の移動の課題を、「移動とまちづくり」を中心に考える

実施報告書

日　　時：　2022 年 7 月 9 日（土）13:00-15:40（受付開始 12：30～）
場　　所：　沖縄県教職員共済会館 八汐荘 1 階　屋良ホール
共　　催：　那覇市議会 無所属の会／沖縄地域社会ビジョン大学院 運営協議会
協　　力：　公益財団法人みらいファンド沖縄／NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】首里地域の「お出かけ」に関わるくらしと交通を考える地域円卓会議

■日　　時：2022 年 7 月 9 日（土）13:00-15:40
■場　　所：　沖縄県教職員共済会館 八汐荘
■着席者数：7 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：84 名(琉球大学講義受講生、企業、行政等)

■共　　催：那覇市議会無所属の会
　　沖縄地域社会ビジョン大学院 運営協議会
■協　　力：公益財団法人みらいファンド沖縄
　　NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供　**中村 圭介**（那覇市議会議員、首里杜会議運営員）

首里城正殿復元まであと 4 年、今後首里地域で予想される渋滞問題や住民の移動の課題を、「移動とまちづくり」を中心に考える

今回の円卓会議は、2019 年に行われた、那覇市における「公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える地域円卓会議」の続編として、首里地域の交通課題を考える会議です。当地域は首里城正殿消失前に観光車両による渋滞問題を抱えていました。同時に県内でも屈指の高齢化が進んでいる地域で、自動車免許返納にともなう買い物や通院の課題が予想されています。首里城正殿復元までの間に、住民と観光客を含めた移動に関わる問題を市民で共有し議論していきます。

センターメンバー

中村 圭介
那覇市議会議員
首里杜会議運営委員

與儀 毅
首里大中町
自治会長

清水 肇
琉球大学工学部
教授

谷田貝 哲
バスマップ沖縄
主宰

喜瀬 斗志也
南城市企画部
まちづくり推進課

➢ 地域円卓会議の動画記録

・公開日：2022 年 8 月 2 日

・URL：https://youtu.be/hIRjRFTRLGw

➢ 今後のアプローチの方向性（提案）

1） 車だけでなく、公共交通やその他の移動手段も利用する新しいライフスタイルも良いという価値共有が必要

2） 移動の課題は、まちづくり、福祉、運輸や教育、観光、行政、住民を含めたクロスセクターでの座組が必須。その場で、新しい交通手段、公共交通の経営も含めてゼロベースで話し合うことと、歩行範囲のエリア内でできることの機能設計を再度見直すことで移動の課題が改善する。PFI や駐車場の話も同時並行で議論していく

■参加者によるサブセッション

首里城正殿復元まであと４年、今後首里地域で予想される渋滞問題や住民の移動の課題を、「移動とまちづくり」を中心に考える

（参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載）

①

・城西小（坂の上に学校あり）
　送迎時渋滞あり
　ランドセルをのせる手段があるといいかも！！
　抜け道として住民がスクールゾーンを使用して、歩行者との交通安全が守られていない
　→申請中
・都市計画とまちづくりはどちらが優先されるのか？

②

・スローガン
　首里高朝混む
・久高島無償
　グリーンスローモビリティ
　7 人乗り　20 ㎞/h 以下
・ラストワンマイル↑解決策
　高齢者公共交通半額
・デイケア事業者の協力
　デイケア車ボランティアで運転
　移動サービスのしくみ
　当座しのぎ
・高齢者は電話（今のところ）

③

・エアコンのきいたバス停や駅があるといい！！
・公共交通バスと、地域のコミュニティバスとの連携必要
・公共バス+α地域のコミュニティバス
・県出身者は、車社会に疑問を抱きにくい。県外で生活する方から見れば、車で大学に通学することを不思議に感じる。

④

問題
・北側と南側で問題がちがう。
　北：スーパーなど５件程度ある。
　南：あまり商店などがない…
・高齢者の問題
　買い物、通院など家族がサポート。いなければ TAXI
・龍潭通りの拡幅などに伴ってスーパーなどが減った。

⑤

・谷田貝さんのバス愛
・県民のバスに対する印象の悪さ
・バス＝わかりにくい
・意識の変容
・情報→デジタル化
・首里のメタバース化
・ニーズをメタバースに落とす
・見える化
・首里に来るならこれを見ろ！！的なもの
・ブランド力の向上
・ゾーニング

⑤

・海外では公共交通利用料金が安い。→行政がサポート
・日本は移動にかかるお金が高い
・海外では市街の駐車場料金が高く利用し辛い
・車の利用率を低くすべき
・行政と民間双方によって公共交通機関を見直すべき
・ゴルフカートの利用は良いが、運転するのは…？

⑦
・民間の力を。
・公共交通の PFI

⑧
・車がなくても生活できる→車社会の意識を変える
・バス料金抑えるべき
・観光バスが住民の交通のジャマに
・高齢者のためのシャトルバス

⑨
・資源
・首里城と周辺の観光資源
・瑞泉酒造
・ゆいレール
アイデア
・ゆいレールにまちまわりパスを設置。
・首里城や周辺の観光ポイントに瑞泉のポイントを設置
・まちまわりパスに check をつけて応募
→歩いて回る観光

⑩
・移動手段について
・スモールモビリティ
道路整備が必要なのでは？
20 ㎞で走行できる道づくり
・電動自転車
若い人（観光客）に向けて普及
・道路交通法改正（速度制限）

⑪
・海洋博公園内のモビリティバス

⑫
・車以外の交通手段にアクセスすることが大切
・オンデマンド交通↔コスト面がかかる

⑬
・首里大名　窓開けられない
・観光客との接点はあった方が良いのでは、楽しいのでは
・路上駐車が多い（観光客と普段からの人もいる）
↳観光客の人数制限あった方がいい。
・近辺の生活大変、一刻も早く…
・教育を受ける地域の人もまちを歩いて学びながら愛しむ

⑭
・渋滞は増えていく
・乗合、相乗り
↳ウーバーとか
↳とらわれずに
・ロープウェイ（可能性）
・道が狭い
↳グリスロとか（レンタカーきついのでは？）
・PandR
・駐車もったいない（車が多くて移動できない）
・坂、くるま（電動自転車所有してまで）
・東・西はキツい。移動だけではなく。

⑮
・首里の高齢者：独居はコミュニティで支え合っている
・現在：高齢者先進地域を目指している
買い物が一番困っている人が多い
久高の様なスローモビリティは可能か？

⑯
・既存の資源の活用
・道路のルールづくり（中高校生も含めて→学校で話す）
・ネットワークづくり
・子育て、高齢化、災害と移動　みんなで話し合い

⑰

・高校では路駐も問題（コロナ以後）
・乗り換えで初運賃がかかる
・昼間客少ないのに大型？→EV でよい？
・シニアカー取り上げられ、自立感失う→困っているかどうか？
　豊見城から泡瀬まで５h
・移動の権利が守られていることが大事
・道が補足バス停までどう移動するか？
・子育て世代も課題
・首里にどうしてもないものもある（服・娯楽）
・グリーンスローモビリティと交通規制

⑱

・こういう声が響いて広がり、行政等が動くようになると良い
・複数クリニック等 連携とって１台のバスで考えれば可能性がある
・首里には観光商売してる人がいないのでこの課題を受け入れ易い
・各機関、団体等の働きかけが具体的で新たな気付きが多かった
・便利を求めた「まち」の副作用なのに、表面的な対策にしかなってない。カナダのように市民意識の変容こそ持続可能

首里地域の「お出かけ」に関わるくらしと交通を考える地域円卓会議
参加者アンケート集計

◆概要

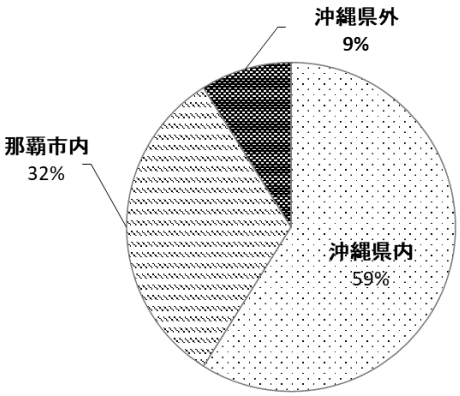
・日時：2022 年 7 月 9 日（土）13:00-15:40

・場所：沖縄県教職員共済会館 八汐荘

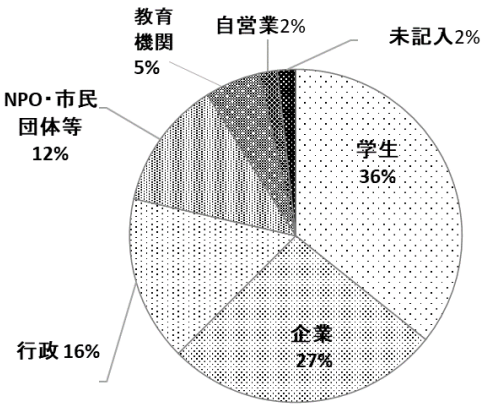
・着席者：7 名（論点提供者、司会、記録者含む）

・参加者：84 名（アンケート回収 56 名、回収率 67%）

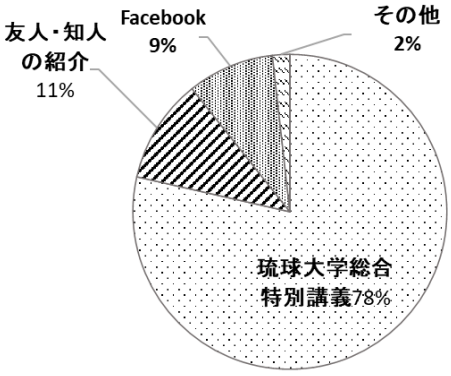
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：4.5（5 点中）

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足してない	1.不満足
25 名	26 名	5 名	0 名	0 名

５．満足度の理由

（５．満足）

- 円卓会議の実務的な内容がよくわかりました。新しい情報と課題、さらに自分の案が整理できました。、
- 問題と議題が抽出できてとてもよかった。
- 1 つのテーマで立場の違う着席者の方が参加する事で、違う角度から意見を聞くことができ、大変面白かった。
- 那覇首里の状況や各センターメンバーから貴重な知見を伺えたので。
- 初めての参加かつ、テーマに対する事前知識も少ない状態での参加でしたが、楽しく聴講できました
- 首里の暮らしの課題という視点から交通を見るという粒度がちょうどよく、面白い議論を体験できました。
- あらゆる分野の貴重な話を聞けた。移動の権利、取り残さない議論が進んでいると思います。
- 4 つの視点からの情報提供をうけて、改めてテーマについて考えるという流れは思考が情動に流されることなく、自分の意見とより良いありかたについて考える機会になり、とても刺激的でした。
- 勉強になりました。
- 題の可能性を広げてそれぞれの分野の視点から狭めるのが良かった。
- 円卓会議に初めて参加しました。
- 色々な視点からの状況把握、事例の紹介、課題の共有があってイメージしやすく、問題や解決の方向性も共感できた。

- リアルな体験ができたため
- なじみのない地域のことだったが、理解でき楽しかった。思ってみなかった方向からも話があったので、予想以上にペクタクルでした！共有する所までで私はとても満足でした。
- 知らなかった知識・情報を知ることができ、円卓会議の進め方がわかったから。
- 話を聞いた後に、ディスカッションの機会があり、理解が深まったため。円卓会議の雰囲気を知ることができ、思っていたより楽しく参加できたため。
- 情報が整理され分かりやすかった為
- 初めて円卓会議に参加したのですが、様々な分野の有識者の方から意見を聞くことで、抱えている課題をより明確に理解することが出来ました。”交通”が環境、観光、健康などあらゆる分野に関わっていることを学ぶことができました。
- 初めて実際の円卓会議に参加したけど、リアルな話と内容を聞けてよかったと思います。
- 気配りのあるファシリテータースキルを学べた。
- 円卓会議にを肌で感じることができました。
- 交通機関について話し合った（専門的だった）
- 自分では思いつかない意見を聞くことができたからです。

（４．概ね満足）

- 福祉に最近興味をもったため知識が乏しいためか、センターメンバーの話が少し難しく感じた。
- サブセッションでも少し意見を共有したかった（時間がもう少し欲しかった）
- 必修科科目としてこれまで学んだきましたが、実際の課題とテーマで参加できた。
- 色々な立場の方から情報がえられ、意見がきけた
- 会議内容の板書を持ち帰って参考にできるのがよかった。休憩があればいいなと思った。
- 異なる視点の考え方が聞けた
- 未記入
- テーマ自体が私も興味のあるテーマであったことが一番大きかった。全国的な免許返納の流れや、首里地域独特の問題（坂が多い）等を鑑み、どの様な話し合いがなされるのか？が見物だった。
- 首里地区の交通問題について知ることができた。行政と民間との連携が必要で、情報提供がかぎになると思ったため
- 専門家をはじめ、各方面の方々の意見が聞けて正直あまり関心がない分野ではあったが興味深かった
- 円卓会議の前と後で交通課題に対する認識が変わった点。どう課題があるのか、知ることが出来たのは円卓会議の役割のおかげだと思う
- 意識や思いを持った人と意見交換ができたから。
- 自分の視点でにない考えを知ることができた。
- 色々な視点で、問題を考えていて、より良い解決方法を探し出すことができると感じました。会議に参加してみて、「私だったらこう考える」「この意見に対してはこう考える」など、自身の中でも考えることができたので良かったです。
- バスや交通の人流を考えさせられ、車に頼ったまちづくりになってしまっていると認識できました。
- 会議の雰囲気を体感できてよかったです。
- いろいろな意見を聞けてよかった。
- １つのテーマに対し、複数の有識者の考えが聞けたため
- いろいろな意見やアイディアが聞けて新たな気づきがあった。また、知らなった情報も得られてよかった。
- 自分の知らない所にあった問題について考えるよい機会になった

・ 生の地域課題に接することが出来た
・ 内容がとても良く知らない知識を得ることができた。後ろの方に座ったのが問題かもしれないが資料が見づらかった。
・ 首里地区の交通渋滞の問題に対する考えを色々な部門の方からお話を聞くことができたから
・ 首里の具体的な課題を聞く事ができて良かったです。
・ いろいろな立場からの情報提供があり、多様な見方が得られた。
・ 他地域と比較しながら南城市を振り返ることができてよかった
・ 交通問題が深ぼりできた

（３．普通）

・ 問題解決していない感が大きい。地域の高齢者や実際の交通弱者が参加していない。市民との共有ができていると話せるから。議論ではなく解説では？議論したていでいるのか？→共有が目標とのこと
・ インプットの時間が多く、スライドも見にくい席配置だったので、内容理解が難しかった
・ 「バスの路線が首里を通過している」ことの紹介は良かったが、あれでは買物には行けないなと話してました。免許返納者の生活のリアルに即したお話ではなかった。

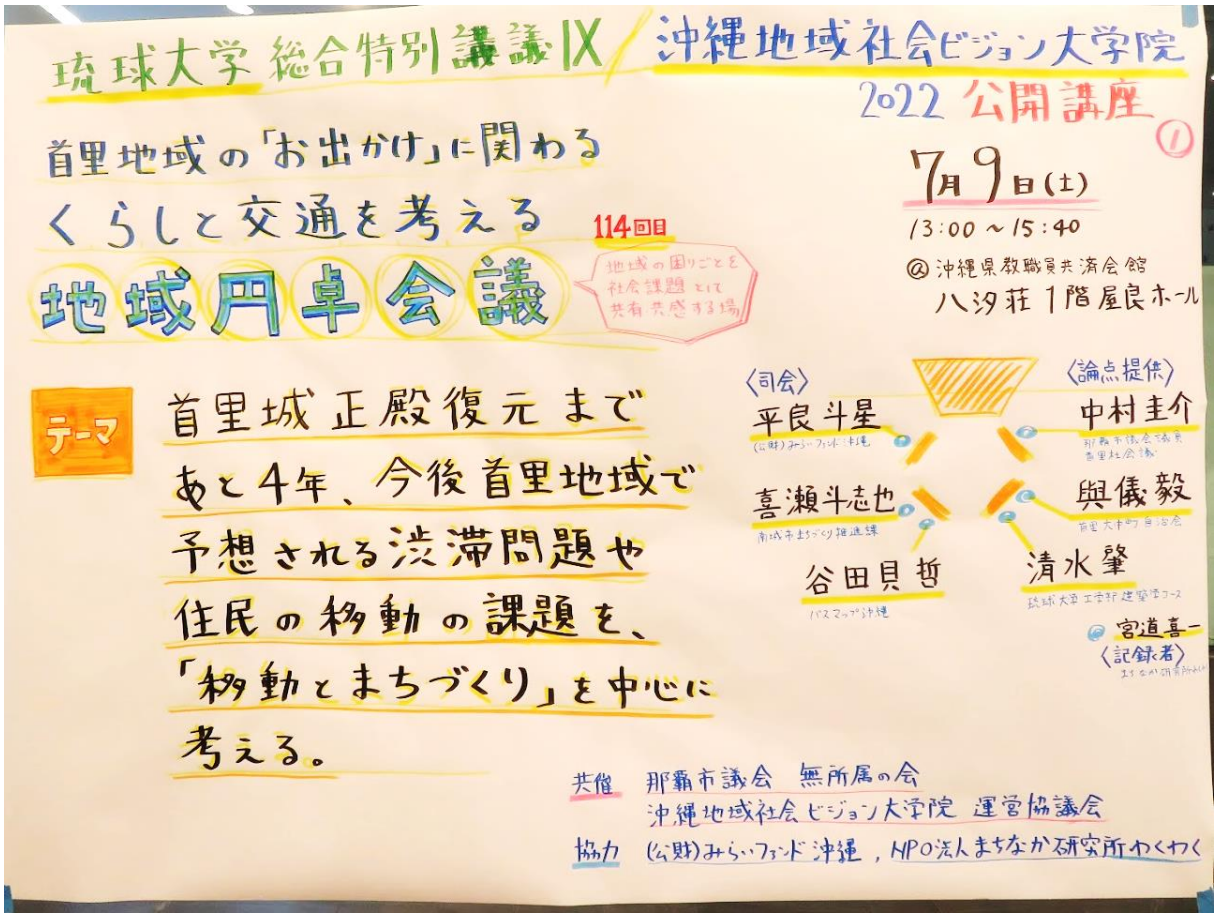
６．円卓会議で印象に残ったこと

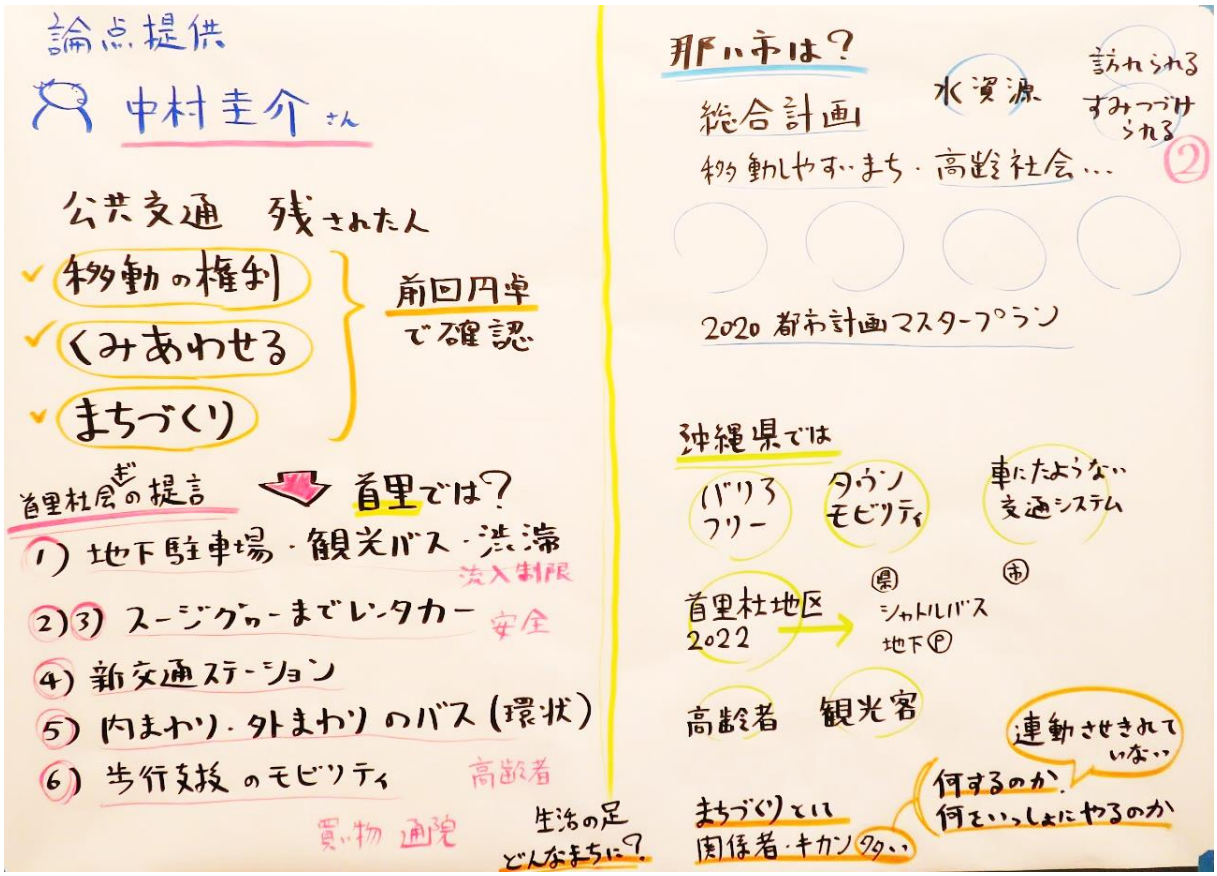
・ 行政側の役割が難しいですね。新しいライフスタイルに気づいてもらうのと、その役割の１つかもしれませんね。
・ 車がないと生活が不便と言われていた沖縄で、谷田貝様のバスを利用すれば充分、生活が送れるという意見には賛同すると同時に個人的にも沖縄に北際には、どこに行くかにもバスを利用しているので大変興深かった。車ありきで考えることはないと思った。目線を変えるとアイディアの幅も広がると思った。
・ 首里大中町の現状とあらゆる可能性となる。そして公共のありかた
・ 久高島の移動手段（電動車両？）は面白い事例だと思いました。首里へ観光やお年寄りの移動に寄与すると思います。
・ スローモビリティや、レンタカーの進入規則等
・ 移動は権利、道路は無料なのに公共交通は？という視点は新しい気づきでした。
・ スペシャルトランスポートサービスを備えた民間施設で、ラストワンマイルを行政と民間それぞれで持ち合って実現
・ 車を利用する生活を当たり前だと思っていましたが、谷田貝さんの「脱クルマ依存化」の話題は、とても印象に残っています。何となく歩けるのに車を使ってしまう生活のあり方を反省しました。「移動のリテラシー」を改めて確認します。
・ 谷田貝さん、清水さんの視点を変えたアイディアが面白く感じました。荷物を運ぶエスカレーターなど。
・ 民間の力を活用する PFI 導入、行政・市民・民間といった関係者で目的を明確にし、役割を分担していくこと。
・ 移動手段としての車に対する考える、車に頼らない価値づくり（生活の質向上？）をどうするか、考え方を見直すタイミングだという点
・ グリースローモビリティ
・ マクロ的な視点で収支バランスを考える
・ バスの新しい線をふやす場合に、既存のバス会社の通り道（バス停）などを共有したり、新たにつくったりして、敵対するのではなく協力して相乗効果を生み出すということ
・ 道路は無料で使って欲しいけど公共交通に利用料が発生していることに私もギモンだと思った。
・ グリーンスモールモビリティ
・ 谷田貝さんの車社会の意識改革

- バスマップ、谷田貝氏の提言は面白かった。私自身来沖した際にはレンタカーを使用せず路線バスやゆいレールを使用しているので、「それほど不便ではない」という意見に賛成である。ただ、バス停の整備や待合所の整備など、課題は山積だと思う
- ラスト１マイル問題　・首里地区はバス路線が多くあり、交通は便利である　・ゾーン30　・スペシャルトランスフォードサービス
- 首里地域でオンデマンド交通を検討しては？という議論がサブセッションであり、是非検討していただきたいと思った。
- おんぶ券は初めてきいたが、斬新なアイデアで面白かった。
- サブセッションで実際に首里在住で支援の仕事をされている方とお話できたのが、良かったです。皆さん色々アイデアを持ってらしたので、サブセッションの時間を倍くらい欲しかったです。
- 移動の権利（特に高齢者）を満すことを色々な手段を組み合わせて実現させること。横のつながりが大切だと思った。
- とにかく行政も広い人たちで話合うこと。バスの地位向上
- グラフィックファシリテーション
- バス乗り継ぎの負担を軽減するため、㎞で料金設定
- 車が必須という意識の変化が必要だという考え
- 出席者、司会、運営に女性の進出がふえることを願っています。
- ”車で移動すること”が当たり前の価値観になっていることに気がついた。観光客に向けて、公共交通を提供する事例は今でもたくさんあると思うが、県内の住民が首里に入域する際にも、公共交通を使ってもらうような仕組み、駐車場料金を払うよりも、公共交通を使おうと思ってもらえるようなメリットを生む必要があると思った。
- 様々な立場の人の考えを聴くことによって色んなアイディアをシェア共有できるのですばらしいと思いました。
- 良いアイデアはありませんでした。一方、「クラスように旅する」、「運輸行政と福祉行政のカベ」は、時代のキーワードであると感じました。
- 移動の権利、都市計画、福祉、運輸との共通認識
- 循環バス（首里内）
- 移動の手段は「車」というのがあたり前になっているのを見直すというのはとてもおもしろい意見だなと感じました。
- 福祉・運輸の壁は、プロジェクト単位の規制緩和策（経産省）で解決できるのではないかと。
- 良い建物を見るためにも駐車場やその他スペースを別の場所へすること、それが移動の権利や選択につながることが印象に残りました。
- 首里が文化的拠点なのに対し、車が多いことが、良い景観をくずしている可能性があるということ。観光とは違った、子育てに関する渋滞が起きているということ。
- 車に頼った社会をについて、どう対応していくか福祉、交通、行政での取り組みの必要性
- 久高島のグリーンモバリティ、電動カートの導入
- 「異なるセクターとの対話」ここが出発点でないと、全体最適とならない為
- ゾーニングの必要性
- 公共交通としてのグリーンスローモビリティの導入（環状線）
- バスや自転車を利用することで自家用車を持たなくても生活できること
- グリーンスモールモビリティがバスが通りにくい場所などで活躍していく移動手段になり得るのではないかと思った。
- ワンマイル、ハーフマイルのアイデア

- 車が生活の中では必需品であるというマインドが根付いているから、そのマインドの変革が必要だということが印象残りました。
- グリーンマイクロモビリティと高校生のバスの乗り換えの話
- 交通弱者の方が集まる場所、タイミングに合わせて移動配売を行うアイディアが印象に残った。オムニチャンネルの一形態としての可能性を感じる。
- 首里地区がこんなに深刻な問題をもってりうことをはじめて知った
- ふわーとした感じ…。・大時計があるとよいのでは。・だれでもできそうな感じを出すのがすごいのではないか。
- 公共交通にトゥクトゥクを使用すればいいのでは、という意見が印象に残った。
- 都市計画を生活者の視点で構築しようという清水教授のお話はよかった。

（写真）会場の様子


琉球大学 総合特別議議IX / 沖縄地域社会ビジョン大学院
2022 公開講座 ①
首里地域の「お出かけ」に関わる
くらしと交通を考える
114回目
地域円卓会議
地域の困りごとを社会課題として共有共感する場
7月9日(土)
13:00 ~ 15:40
@沖縄県教職員共済会館
八汐荘 1階 屋良ホール
テーマ
首里城正殿復元まで
あと4年、今後首里地域で
予想される渋滞問題や
住民の移動の課題を、
「移動とまちづくり」を中心に
考える。
〈司会〉
平良斗星
(公財)みらいファンド沖縄
喜瀬斗志也
南城市まちづくり推進課
谷田貝哲
バスマップ沖縄
〈論点提供〉
中村圭介
那覇市議会議員
首里社会議
與儀毅
首里大中町自治会
清水肇
琉球大学 工学部 建築学コース
宮道喜一
〈記録者〉
まちなか研究所わくわく
共催 那覇市議会 無所属の会
沖縄地域社会ビジョン大学院 運営協議会
協力 (公財)みらいファンド沖縄, NPO法人まちなか研究所わくわく


論点提供
中村圭介さん
公共交通 残された人
移動の権利
くみあわせる
まちづくり
前回円卓で確認
首里社会議の提言
首里では?
1) 地下駐車場・観光バス・渋滞
流入制限
2)3) スージグヮーまでレンタカー
安全
4) 新交通ステーション
5) 内まわり・外まわりのバス(環状)
6) 歩行支援のモビリティ
高齢者
買い物 通院
生活の足
どんなまちに?
那覇市は?
総合計画
水資源
訪れられる
すみつづけられる
移動しやすいまち・高齢社会…
②
2020 都市計画マスタープラン
沖縄県では
パリ
フリー
タウン
モビリティ
車にたよらない
交通システム
首里杜地区
2022
県
シャトルバス
地下P
市
高齢者
観光客
連動させきれていない
何するのか
何をいっしょにやるのか
まちづくりとは
関係者・キカンタイ

與儀毅さん

首里大中町自治会

大中町 36.4%

高齢者 65才～ 29%
首里
（県 22%）

1,528世帯 独居（20%）

- 交通渋滞・オーバーツーリズム
  せんたくものほせない・植物かれる
- 火事・救急車 通れない
- 買い物不便・車手ばなす・免許返納
  運転こわい
- 狭いってかえるのがこわい
  ・スージグヮー 車1台通るギリギリ
- 通院・定期的に
  家族たよれないとタクシー利用せざるをえない

都市計画の変更 → 道のあり方
たち話・遊べる・歩ける

③

少し歩ければ、
生活に必要なものが手に入った
お店がいっぱいあった。
床屋・本屋・・・

- まちのキノウ

細い道のキケン度

学校 保育園
首里高・首里中・城西小
城南小

- おくりむかえの車と観光バスのバッティング

谷田貝哲さん

⑤

バスマップ沖縄
バスはある。移動できる。
ただわかりにくい。

首里を走るバス 市内線／市外線
バスのサービス水準・低くはない

100円コミュニティバス 実証実験
↳ 沖縄バス → なはバス

- 首里城 → しきな園 の移動むずかしい
- 住民の利用どこまでされている？
- スーパーなく、買い物は自転車で
- 車なくても生活できる。便利
  すなおな実感
- 建物の前・ヨコが駐車スペース
  ↳ 景観としてどうか
  車が前提となりすぎていないか

- 若い人 車もたなくなっている
- マインドを変えていく時期
- 車を使わない人の社会的地位を上げて。
- 高齢者の免許返納 → 3ヶ月毎年
- ちねん商店あるが。
- 200円バスのってサンエーへ、というわけでもないハズ
  他のセクターのメリット
- 近くで調達できるように
- 移動手段を選んで生活できる
  公共交通運賃以入3割引きので
- 知識・リテラシー
  バスの乗り方教室という例も。
  なはバス 6600円でのりほうだいとか。
  首里の中 通院・通学 循環ルート
  住民参加
  自分たちの移動手段と思えるか
- ラストハーフマイル（1マイル）
  坂もタイ
- 支援のモビリティ／歩行者支援
  公共エスカレーター

喜瀬斗志也 さん

⑥

密度の高い地域

都市化する中での構造の問題

Nバス（南城市） R.1年10月～

市民→車の移動メインできびしいのでは.

知念→カソ地へ指定

いつきられてもおかしくない

その前に自分たちで市内線を走らせる

那ハを目指す路線→ヨコにつながりにくい

経営→バスあることで他のセクターが助かる.→運賃だけでまわすのではない

移動は権利

人がうごくことでのハキュウ

観光→コミュニティツーリズム

付価値を.

ラスト1マイル問題

バス停まで○○○m 遠い

久高島 — 最高20km/h

グリーンスローモビリティ（7人のり）

2台導入 ↳スージクのーすれちがえる.

ガソリン→電気へ（島内調査）

自転車 たりない・スピードだしてあぶない

ライバルにならない

すみわけ

首里でも使えそう.

交通手段どうしのくみ方

次の世代へ

ギムと権利

民間とオープンなギロンの場

都市計画

運動と福祉 行政

移動困難

介護保険でおんぶけんつかえる

坂あるまち開発

エスカレーター・ホ助

地域でリフトを.

ラスト1マイル

色々な可能性をハイジョしない

何kmに何シート与えたのか

移動の権利

道路と公共交通

公共交通は社会インフラ

バス会社

民間

なりたってしまう特異な場

できなくなってきた

議論の場へ

接点 話しきってニーズとらえる

片道定期 受期定期

行政

市民集ってワークショップ

事例学びながら

場をもうける

目的ハッキリ

方法みえてくる

県 市

通り会 自治会

会社 個人

役割分担のギロンを

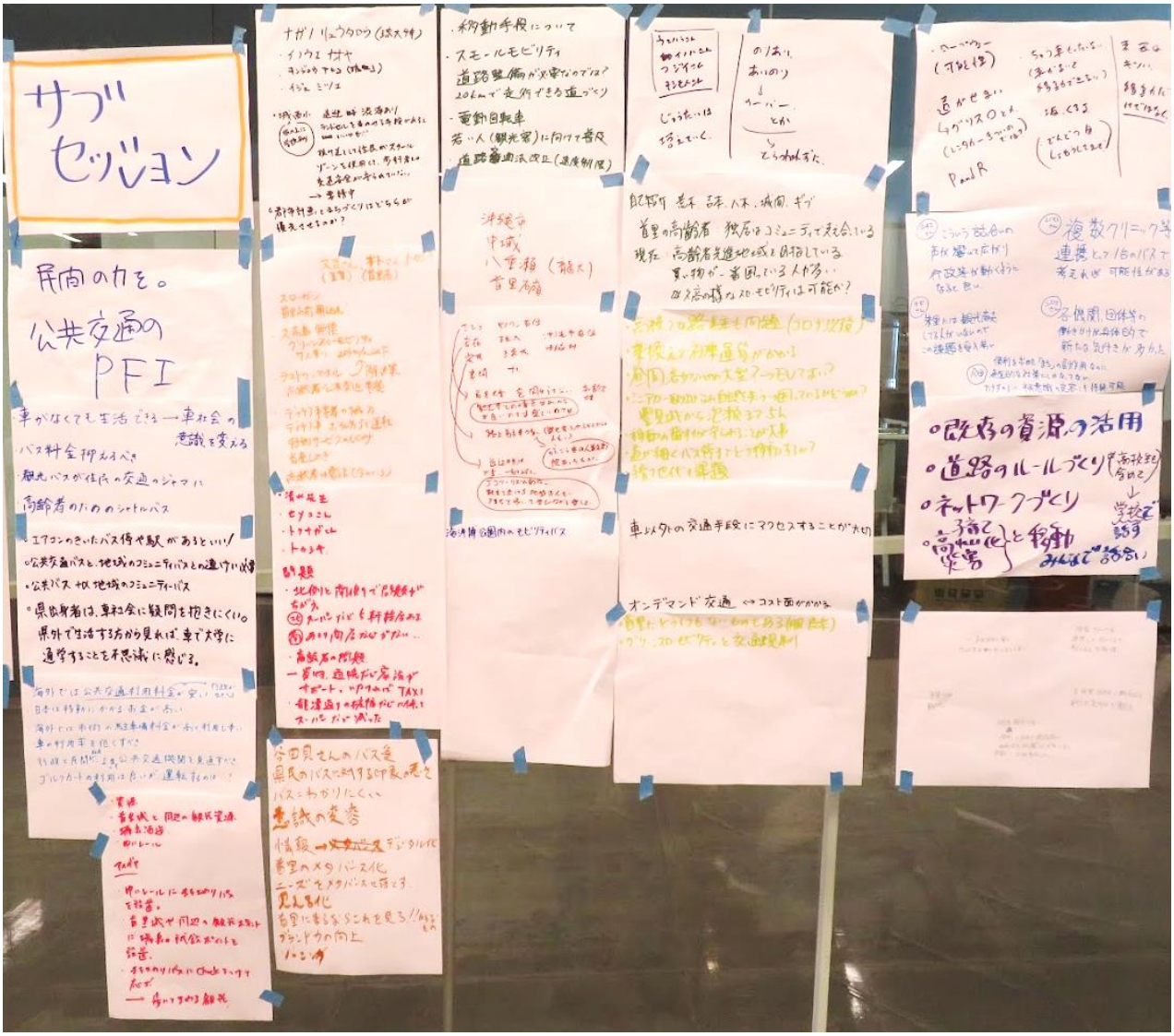
バス通勤

やってみないとわからない

価値に気づく

中村さん・斗星さん

- ✓首里杜地区から形に
- ✓応答をつみ重ねていく
- ✓新しいライフスタイル
- ✓価値の共有
- ✓教育・観光…クロスセクターで
- ✓ゼロベースでの議論を.
- ✓エリアとしぼって. 歩行ハン内で
- ✓できることのキノウ設計（PA1・駐）


サブセッション
公共交通のPFI
車がなくても生活できる→車社会の意識を変える
バス料金抑えるべき
観光バスが住民の交通のジャマ
高齢者のためのシャトルバス
・エアコンのきいたバス停や駅があるといい!
・公共交通バスと、地域のコミュニティバスとの違いが必要
・公共バス +α 地域のコミュニティバス
・県外出身者は、車社会に疑問を抱きにくい。県外で生活する方から見れば車で大学に通学することを不思議に感じる。
・道路のルールづくり
・ネットワークづくり
・高齢者の問題
・高齢化と移動
みんなで話合い